

病家須知

一名病家心得草

二

食物能毒の忌得... 腹の慎ふ... 病を飲食... 〇留飲... 〇宿積... 〇嘔吐... 〇泄瀉... 〇痢疾... 〇腹痛... 〇嘔吐... 〇泄瀉... 〇痢疾... 〇腹痛... 〇嘔吐... 〇泄瀉... 〇痢疾... 〇腹痛...

ヤ9
1098
2





病家須知卷之二

食物能毒の心得を説

初小述たること大なるの平常養生の心得も。その第一は飲食小あ
 り。既病あるものも。ま病者を看護する小も。先其飲食を擇
 禁宜を審小く。病者の欲小應むべし。此小よりて食も進病
 の治るも亦ともあはざ。是を知こと尤肝要あり。故小今其梗槩
 を此小説示んとも。凡人の飲食をるも。その飢渴を療生命を保
 り爲なり。然を其生命を保べきものを貪り。生命を害するも。尤
 愚昧の至る也。此を古人も其小きを養て大あるものを
 忘るる也。故も人の人たるも。知んとならば。飲食





の慾を縦ホシ小ホシをるホシ小ホシとるホシ。深恥フカクハッべたことあり。世の該小コトガ食シヨクを損ヒカユと
 へ身ミの養足ヤシヒタラ比ニク。肉ニクを多喫オホクささオホクば體小カラダ滋液ウルホヒありといふ。こは大小
 る誤アズあり。白クの物モノを屑コニスるを見よ。物多モノオホけさば粉粗コアラク少スナクけさば精コメカか
 王オホとさら肉ニクを脂多アブラオホク餒スエやと。過喫オホクへば必身カミ小ミ害ガイあり。肉多ニクオホシと
 雖イモシヨク食シの氣小キ勝カタしめどとる。古聖人イニヘセイジンの戒イカシあり。漢土モロコシを米穀コメ小コメと小
 乏トセく。就中稻ナカンブクの貴タケキことを錦小ニキ比ヒく。親オヤの喪モ小ク食シ小コとをハ許ユルさ
 一ヒトことさへ。古昔ムカシの書シヨ小シヨ明アキラカあり。且惣カツて米穀コメを我邦ワカクニの物モノ小オトリ劣オトリて
 味麁アヒヒ薄膩マツク液アブラ少ス。こは小コその國クニの初ハジメを見るミ。壤地トナ西北ヒラケ小ヒラケ開ヒラケく
 海ウミに遠トホけさば。上代ウヘノヨを魚肉イサニク尤モトモト乏トホく。中古ナカムカシ小コありては比ヒ自魚カレヒをら
 るか異イナこと小珍重チンチヨウとるありさま憶オモエて。今もなほ海魚ウミイサの生鮮アフラケキ

を生涯シヤクガイ見るミ小コとあはれこころも多オホクあるべし。かゝる邦クニあさば雞ニトリ
 豚ブタを畜カヒ諸獸シヤモノを常ツチの膳サイ小スルも充ウレこととる。習ナラとるを正ただたるあり。我邦ワカクニ
 の小コとささ。米穀コメの甘美アマキこと萬國マンクニ小コ超常コエ小コ喫クことろの稻ウル米メを
 異域イタクの品シモノより其味ソノアジヒ尤モトモト優ヨクく膩液ウルホヒ多オホ。志シのこゝらば環海カンリウの國
 小コて。魚肉イサニク饒多タクサン小コく。卑賤イヤシキものといへどもは飽足アキタラさるこを
 小コ。酒サケもまゝ釀烈チノフツキこと支那モロコシ諸國シヨクニの及オヨこころ小コあらど。かゝる
 小コのを常に飲食インシをる故ユエ小コ。我邦ワカクニの人ヒト小コを壹粘膩モクシラカキ留飲リウインよ正ただきた
 る病ヤメ小コと小多オホ。如此サカレことをも辨ワカむ異邦イコク中夏カラの書ホンを讀ヨムもの。や
 やもささば。我邦ワカクニの昔ムカシを獸肉ケモノニクを常食ジヤウシヨクとしたり。喫クべしとく小コを
 を人小ヒト勸メるものあさども。上古オホムカシの海ウミよこた地チ小コ都ミヤコとまひ

たる時とも異く。今ハ四海運輸自在シユウにして魚肉小乏トホシき國も少る
也。古を以て今代律ススをたにあらば。ほと今の世かりとも魚肉
あら地トコロ小乏。獸肉ケダモノを喫クラフこと何ナニのありたあとのあるべきを。で小
海小乏の信濃諏訪の社神ウヂノカミも。今もあは鹿肉シカを喫クラフことを許た
まふこと。聽キケ王ト土地ヒラタ關米穀饒多モツタなりくより。膏腴アヂ獸肉ケダモノの邦人
小害ガイあると解サトするが故ユエ小。自然シゼンの道理ダウリ小く。たは唱ハシメいつ和トモとも
あく。我邦ワガクニの神明カミあを禁制キンゼイたまふともいひ習ナラせるあり。か
ある天然テンゼンの理ワケをも明サトむく。あを佛法ブツポフ興隆キョウリョウ小あ里サカたる故ユエあ
里サカなどいふも愚昧オロカあるあとあり。も一獸肉ケダモノを穢ケガレりといふは。
魚鳥クイトリもまゝ同肉類ニクル小て穢ケガレりともをべし。生ナマある物を食クラフことを

禁キンとならば。禽獸トリケダモノ魚介ウヲケの差別シヤベツもあるべのらば。然シカを魚鳥クイトリを禁キンせ
ざしてむとり獸肉ケダモノを禁キンむること。かの膏腴品アヂモノの人の體カラダ小宜ヨシ
あら祓ハラヘべ。人々オノノ己々オノノが身ミ小具タたる神明カミの自然シゼン小禁キンむる故ユエなる
あとはアキラカ明アキラカある小あらばや。ゆゑ小無病壯健ムヒヤクダツシヤの人小もあは。獸
肉ケダモノをさら小もいふも。魚鳥クイトリありとも恣シ小喫クラフく度を過ホドても。敦阜コヤシスル
の害懼ガイオンべし。をべくの食事シヨウジハ七八分をその度ホドとあをべし。慣ナレて
常ツネとあをを飢ウエを知オモヒもの小あらば。況マシや酒肉モチヒキモ染餅ルシの類ルも尤過食モツモクヒスギ
べたもの小あらば。飲食インシを恣シ小く止ヤマささる。芥カイをもつく腸ハラを
斷タツぶこと。ささと病人カヒヤクの血液ケツの滋補シホを養精ヨウセイ食シ小須者マツモノも。常ツネの
例レイ小あらさる。時宜ツノトキ小從ヨリての酌用サリヤクハあるあとあり。をさらを

も一槩ガイ小禁イムべーといふイムふらふらイムあらばイム。あ、小心イム得イム危イム危イムあとも。たとへ血液クハ枯ホヒ燥フツクするもの、餌食クスリ小宜イロキものありとも。病人イロキの好イロキさるものを強レヒて喫クハしむるを益エキあはれエキのまらば。却カラて轉輸ハランを沮礙コセの懼イロキあはれ。餌食クスリ小必カキ病人イロキの意イロキ小適カチもの、中小イロキ。其性イロキ味善イロキ品を撰エラて用イロキるを專セン一とせばイロキあとなり。をばも一イロキ次イロキ小喫クハしめても。泥滯ツカとを滋養ヤシ小のあらぬものあり。あのこと強イロキよく解イロキて。餌食クスリの品を撰エラふべし。

平常ツ小喫クハ慣クハするものを病イロキありとく嚴制キゼをべはイロキあらば。消化コナレ難アレキものあらばイロキ大方イロキを喫クハしめく可イロキ。唯分量イロキを過イロキざるもの。酸ス苦キ甘カン辛シン鹹ケン等の偏味イロキを多喫イロキ可イロキあらば。ほと同品イロキを數日イロキ喫クハも

あし。のへるぐ些チづ、喫クハたるのよし。平素ヘイ其人イロキあはれ小殊トク嗜スキ好イロキものあり。をばも自然イロキ作用力イロキの必イロキを物モノ小託ヨリ益エキあることあるものあり。偏味イロキあはれイロキも大方イロキを許イロキ損イロキなれものあり。をばも其度イロキを過イロキせば必害イロキを招イロキめ。をばも。酒イロキを嗜スキて朝夕イロキ定イロキりたる食イロキ小換カるたぐひも。あはれ其味イロキ小耽イロキもの小く。自然イロキ作用力イロキの所為イロキ小あらば。よく思イロキべし。食滯イロキの輕イロキ小藥イロキを用イロキ小及イロキび食イロキを減イロキく數日イロキを歴イロキする多イロキハ治イロキするものあり。をばも食イロキハ飢イロキて喫クハべはれものあり。無病イロキのときといふとも。朝餐イロキのまイロキ消化イロキどイロキあはれ。午飯イロキを喫クハべらば。晚イロキ

食翼且小ありくもあらず下降くぬると知バ。早饌も飢来て後小
喫べし。常小如此を色バ食滯の患を決りくあるふとなし。食滯
食傷も。され小喫さるもの消化さるころへ。重く喫小より
て發ものなり。人その急小腹痛苦悶を見く。その時小喫さるも
のの中たるとかそへとも。まつさく左小あらは。餒敗たるも
のう大毒あるもの小あらは。平暴小腹を惱小といさらぬを
のあま。をべくのこと其度を超て。樂却て苦となる。酒ハ微醉
小飲。花半開を看をよしとをといふ小あらは。況や。
常小健啖をる人。その思慮知見も自然と昏眊あるものなり。
庸愚ある性質小くも。飲食の慎ふく。食六七分を度をさる者

意表ある知慮も出るもの小く。たとへ病ありても至劇小赴
を漸小差て。身體も輕爽小なるものあま。色を天地の真理よ
里いへ。自戒と慾を恣よせぬ。天命を知小近け。心も隨
て平小身も健あり。まゝ受得て定ある天祿を食のをさるさち
あま。享年も自延べき道理あり。まゝ事實の上より論むると
は。飽食過飲をるもの。氣血の轉輸漸小遲澁あるゆゑ小
睡眠と貪く萬事小懶く。身體の舉動あしく。智見朦昧よして。一
切堪忍あたらは。事小處て明あらは。常小悔恨こと多け。色ハ
鬱悒望慮暴怒。虧心小。いよく元氣主宰の職を失ひ。腸胃氣血の
運行を障礙こと多く。病も隨く進やをく。必その天年を全を

るおと能は。予此言の實否人々自試く自明むべし。其深理
小至くおの編のよく詳説とあり小あらばた。其一端を示
をまぐなり。猶攝生の編小述する。食眠身息心の五を調和る説
を讀得て參攷をべし。

惣ての飲食をるもの。其三分の一を騰理昇陽より發洩三分の
二を前後洩とあるものとまづ心得べし。復ち昇陽より洩こと
多冬も小便小出ること多も汗多發たるとは小便少も其
原相遠ざるを以てあり。おの昇陽兩便の通洩いさ。おも溢滯
ことある小從く。一切の病とあるの故小。假令無病の人ありと
も。二便の通利と飲食の分量を常小意を加て自考知こと肝要

あり。大便の秘閉もよろしおら秘と。小便の飲量小比く少きを。
病の漸小をたれやと速注意て慮を爲べし。久病重患小も小
便の通洩一昼夜も絶く無る。必容易のこと小あらばとまづお
もふべし。是大小便の通利を説の大略の之。其詳おとる俗人の
心解をたれ小あら秘なり。
大病瘥とくや、食を思とたれ。おづ至軟かく消化やをた
物を擇ていさ、おぼ、與べし。必過べらむ。食事も三次小限
たるおと小あらば。一次小與んとかもふものを。二次小も三次
小も喫くめたるおよし。まゝ頻小飢く食を欲小與さむ。却く
不食とあることあり。故小一次小多與て問あらんよりを。をり

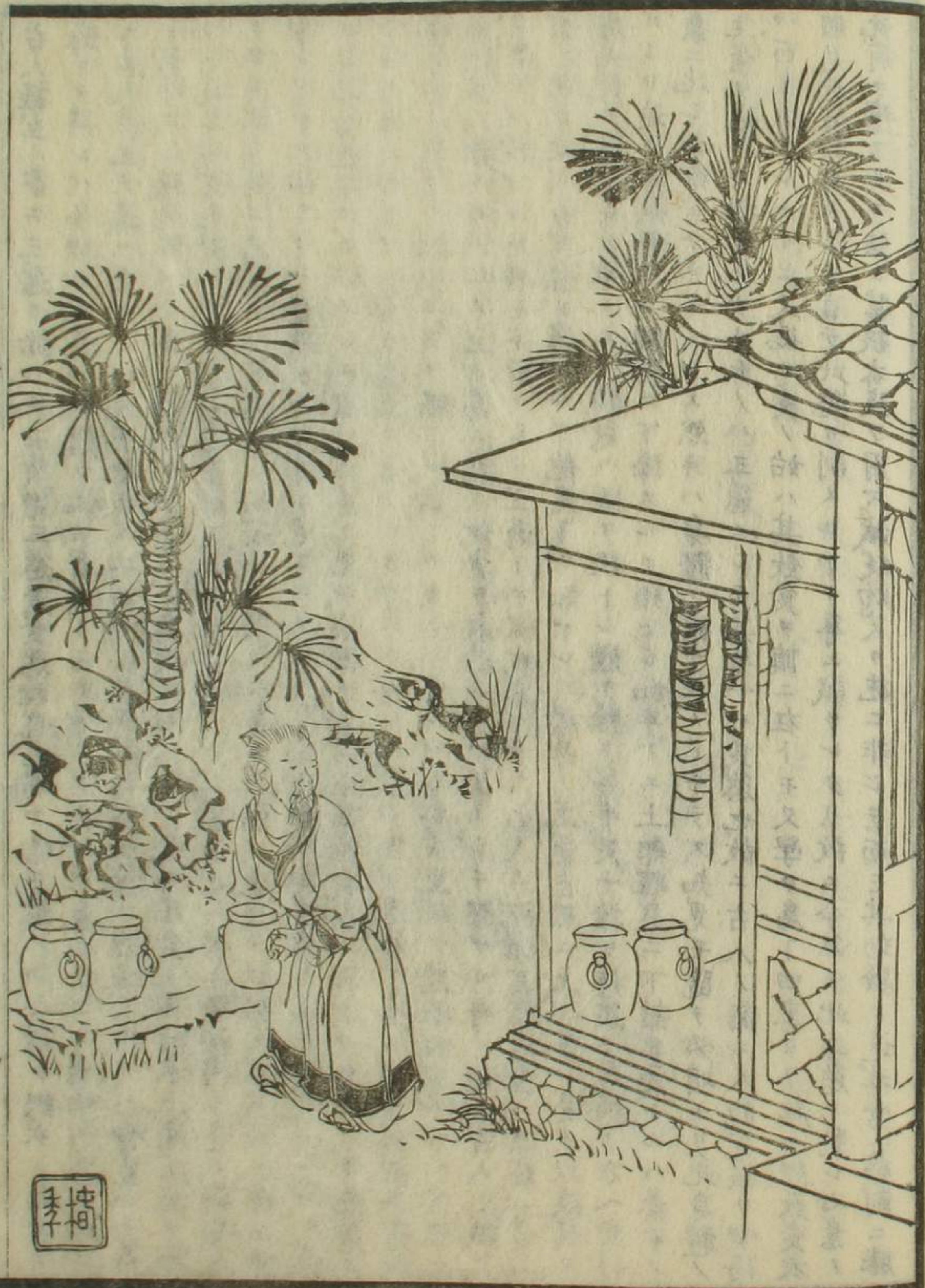
をり少づ、喫せく。運化の機を導べし。七色ゆゑ復素小の、り
たる病者小。夜中も糜粥やうのものををり補く用意し。不時
の需小供るやう小をるふよし。
食物の禁忌も。其人の強弱と性質と。病小由く斟酌あるおと小
て。一途小論たれたおと。且假令生質壯實あるもの小く
も。多年の病小罹。腸胃脆弱ありさる。或も大病小く久不食を
るとれた。一切の消化あしきもの粘膩あるもの、類も。最消息
せ補をあらぬことなり。はら痘疹前の禁食産前後の禁忌をど
いひく。昔より平常の喫慣たるもの小拘忌をる。大なる左計
ある。産婦小川魚を禁といふも謂をたおと小く。川小流るとい

ふを禁たるまぐあるおと。古人もをて小論ト及ものあり。は
た諸病小各禁物あること。或醫書小載。俗間小もいひつふま
とも。無益あることのみ小く。執拘たれたこと多し。たゞ禁合食
も。其物小異なる性質ありて。一物小くも毒をたものも。彼と是
と相合て。人を害をるおとをた小くもあら補べ。決して其理を
しといふも却ていさらぬ臆断あるごも。通途の醫書ごも小記
たるも。七色小もあらぬことをおとくくいひく。明據ごを
ごたれたおと多し。其侘時をらぬ物。名も知ぬ物。常小喫慣ぬもの
も一切禁くよし。まゝ煮て宿を經たるものも。一切の菜肉決
て病人小喫しむべからむ。攝生家とたとへ無病の時も煮て日

を經たるものも。餒する小あらばとも必喫ことをいむ其故ハ
顯微鏡小く其色を見よ。微細蟲生トくいるやど火小炙ても速
小死ぬるもの小あらば。六の蟲暑熱の頃尤多生じ。別く慎べ
。 1。
看病人の尤心を注べたものも飲食あり。まゝ固病あるものも。
鑿を撰小其宜を得ば。或る僻境小く鑿小乏さる。まゝくも藥を
服こと經久けきども効あるの類也。其飲食を慎起居動作を節
して。妄ある藥を服む。病を自然小変て治むるものとまゝ多し。む
らゝ或癩病を得。面部手足ともに膨脹潰爛。その臭穢近べら
ば。他人もいふもさらあり。のちくハ親戚も省問もの少やう小

ありたる也へ。かく家小在て恥とせんより。深山幽谷小入
こもかくもあきること。竊小家と遁出て。人跡絶たる山中小入。
樹下小卧崑崙小棲て。果實草葉ある小まのせく採茹溪澗ニ下
てる水を喫。かくく期年過るうちに。腐爛ニとある漸小瘡て。
いつり顔色うるハくある。身體爽健あること以前小倍
く。再家小歸するものありと聽り。ことあるを道ニ道理小く。俗諺
あるら。一。小看護。二。小飲食。三。小藥治といふおとく。急劇暴病
を除の外也。其服藥を急んより。先飲食を戒ること専用あり。
常小をちふる穀肉果蔬ハ。皆人を滋養ものを擇ニい小へより
上下かへべきの食膳小充たるもの小て。幼より腸胃小習慣

たきども。其人の嗜好とあるの偏小よりて。ほと病を生むるあり。故小其發するところの病小從て。其慣來するものを嚴禁制し。其損害らとあるところを治さば。自疾も瘥まふ服とあるの薬も速効を奏やと。をいふ。薬を服むる里小く。飲食の慎簡率あると。用どころの薬小よりて却て害とあるものあり。今左小舉どころ。常小をちふる穀肉果蔬も。病證小よりて宜禁あると。ほと其飲食小託て病を治することあると。類數十品を出。その要領を曉て。他へことより例しく知むるまであり。世小食療の書數多あると。性味効用を論むること。多ハ影を搏やうある空論小く。據とあるた紀おとのみあれ



持

古人攝生ノ書ニ三慾ヲ論ジテ云。所謂三慾者。食慾睡慾色慾ナリ。三慾ノ中食慾ヲ根本ト爲。喫テ飽テ得レバ昏睡レテ多ハ色慾ヲ起ス。若喫テ三四分ニテ止レバ氣血自然ニ順暢ス。味ヲ慾ニスル人ニ五ノ患アリ。一ニハ大便調ラズ。二ニハ小便頻數。三ニハ饒ニ睡眠ス。四ニハ身重レテ業ヲ修スルニ堪ズ。五ニハ消化セザルヲ患。故ニ曰。一切ノ病唯宿食ヲ其根本ト爲。若病ヲ却ント欲セバ。宜先食ヲ減スベシ。古醫籍ニ云。恬澹虛無ナレバ。真氣之ニ從ヒ。精神内ニ守バ。病安ヨリカ從來シ。是以志閑ニシテ慾少ク。心安レテ懼ズ。形勞レテ倦ズ。氣從テ以順ヒ。各其欲ニ從テ。各願トコロヲ得トナリ。慾寡ケレバ妄ニ求テナク。足テ知片ハ心志自然ニ主トスルトコロヲ得テ妄念萌動トナク。壯ニシテ道ニ入易ク。老テ益健ナリ。假令其徳古人ニ恥トコロアリテ。動靜トク道ニ合セザル者モ。其心ニ主トスルモノヲ得レバ。以テ生ヲ保終ヲ善スベシ。詩歌書畫連誹茶香ノ末伎ト雖。徒ニ日ヲ曠シテ爲トナキニハ愈ルベシ。野夫里嫗ノ閑暇無事ナルハ。念佛三昧題目三昧モ亦以心ノ主ト爲ニ足リ。飽食テ遨遊スルハ。沈トシテ係ザル舟ノ如シ。古人モ誠ラレタレバ。必一日片時モ安閑トシテ空過トテ深戒慎ベキ也。人ノ視聽言語飲食ノ諸竅ハ皆上部ニ在ガ故ニ。若其慾ヲ恣ニシテ飽足トテ知ザレバ。周身ノ生氣自然ニ上ニ逆シ易ク。以疾病ヲ釀大札ヲ致ニ足リ。惣テ人ノ軀殼ハ頭ヲ根トシ。體ヲ輪トシ。手足十指ヲ枝葉ト爲。頭ノ方ヘ牽引スルヲ逆トシ。病苦トシ。腰脚ニ下降スルヲ順トシ。和平トス。上部輕爽ニ。下部豐滿ナルハ。泰平ノ象ニ比レテ。病苦ナキモノトス。然片ハ身體ノ健ナルノミナラズ。知見モ隨テ必明ナリ。此身體ノ生氣ヲ逆スル根本トナルモノハ三慾ニシテ。其第一ハ食慾也。故ニ古人ノ語ニ。人能茶根ヲ喫得バ。百事咸ベシトイヒ。又徳ヲ養ノ始ハ其飲食ヲ慎ニ在トモ。又學ヲ爲ト四事ヨリ起ル。謂飲食衣服居處言語ナリトモ言テ。此慾ヲ制スルヲ專ニ誠ラレタリ。故ニ今兼テ此三慾ヲ鑿シ。心意ノ沈痾ヲ療マルニ。強ニ草根木皮ヲ用ズ。鍼砭灼艾ヲ施ニ非ジテ。而モ其効驗ノ速。尋常ノ藥劑ニ勝

タル丸散湯液數首ヲ掲出シ。コレヲ天下億兆ノ人民ニ授テ。未萌ヲ治シ。已病ヲ愈テ。同壽域ニ隣ンテラ欲ス。其法方ノ如キハ。凡古人ノ軌轍ノ從テ。立方ノ本旨ヲ失ズ。唯時ニ臨テ。一ニノ出入アルノミ也。衆人能信受シ。久服急トナクバ。何ノ疾苦カ平治セザラン。何ノ事業カ成就セザラン。實ニ却病攝生ノ神方。長生久視ノ妙劑也。仰テ信ズベク伏テ思ベシ。

第一和氣散

一切ノ客氣怒氣
抑鬱不平ノ氣ヲ
治ス。

忍字 一個

忘字 一個

二味細末シテ。不語唾ヲ用テ送下ス。或ハ先服スルニ忍ヲ以テスレバ。一朝ノ患ヲ免ベシ。之ニ繼ニ忘ヲ以テスレバ。終身ノ憂ナカルベシ。



第二無憂丸 能三慾ノ毒ヲ制シ。妄想ノ火ヲ消ス。
 前方ヲ用テ丸トシ。潔白ヲ衣トス。之ヲ服スルニハ。先。閑寂清爽ノ一室ニ。几榻蒲團ヲ設。香ヲ焚
 テ端坐シ。身體ヲ寛裕ニシ。出入ノ息ヲ調テ。後ニ服スベシ。其間意ノ適トコロニ從テ逍遙シ。或
 ハ風月ヲ吟弄シテ情ヲ遣。或古書ヲ讀テ古人ト晤言シ。或ハ獨爐ニ對シテ茗ヲ煮。或ハ友ヲ會
 シテ清談シ。專汚行ナク。心ニ恥ヲナキヲ以テ。終身ノ樂トシ。驕奢遊侈ノ風ヲ慕フナカレ。若禁
 戒ヲ慎マシテ。妄ニ此藥ヲ服スレバ。ヤ、モスレバ沈溺ノ毒ニ墮眩シ。損害ヲ致ヤスシ。唯其餘
 暇アルトキニ於テ。能其分量ヲ守。之ヲ服シテ倦ヲナク。志ヲ其中ニ養トキハ。神氣漸ニ爽快ニ
 ナリ。世間ニ煩惱アルヲ知ズ。我心ニ妄念ノ起ヲ見ズ。遂ニハ心ノ主トスルモノヲ得。身體
 モ隨テ安穩ナルベシ。



第三守分湯 遊墮ヲ戒驕奢

ヲ制シ。心志ヲシテ和平ニ。
 精神ヲ壯健ナラシメ。未病
 ヲ治シ。已病ヲ却。福ヲ冥々
 ノ中ニ植テ。子孫ノ後榮ヲ
 致シム。其効尤諸藥ニ優シ。
 少事^{以當} 早寢^{以當} 晨起^{以當}
 榮儉身^{以當} 節用^{以當} 晚餐^{以當}
 肉^{以當} 安步^{以當}
 右七味和勻煎成テ意ニ隨
 テ之ヲ服ス。素貧困ノ病ア
 ルニ非モノモ之ヲ服スレ
 ハ必益アリ。或ハ此湯ヲ以
 テ主トナシ兼ニ無憂丸ヲ
 用テスルモ亦可ナリ。成効
 速ナラザル者ノゴトキハ。
 後方長生飲ヲ互用シテ益
 ヨシ。



廬原乃清
見之崎
乃見穂乃
浦乃寛
見片物念
毛奈信



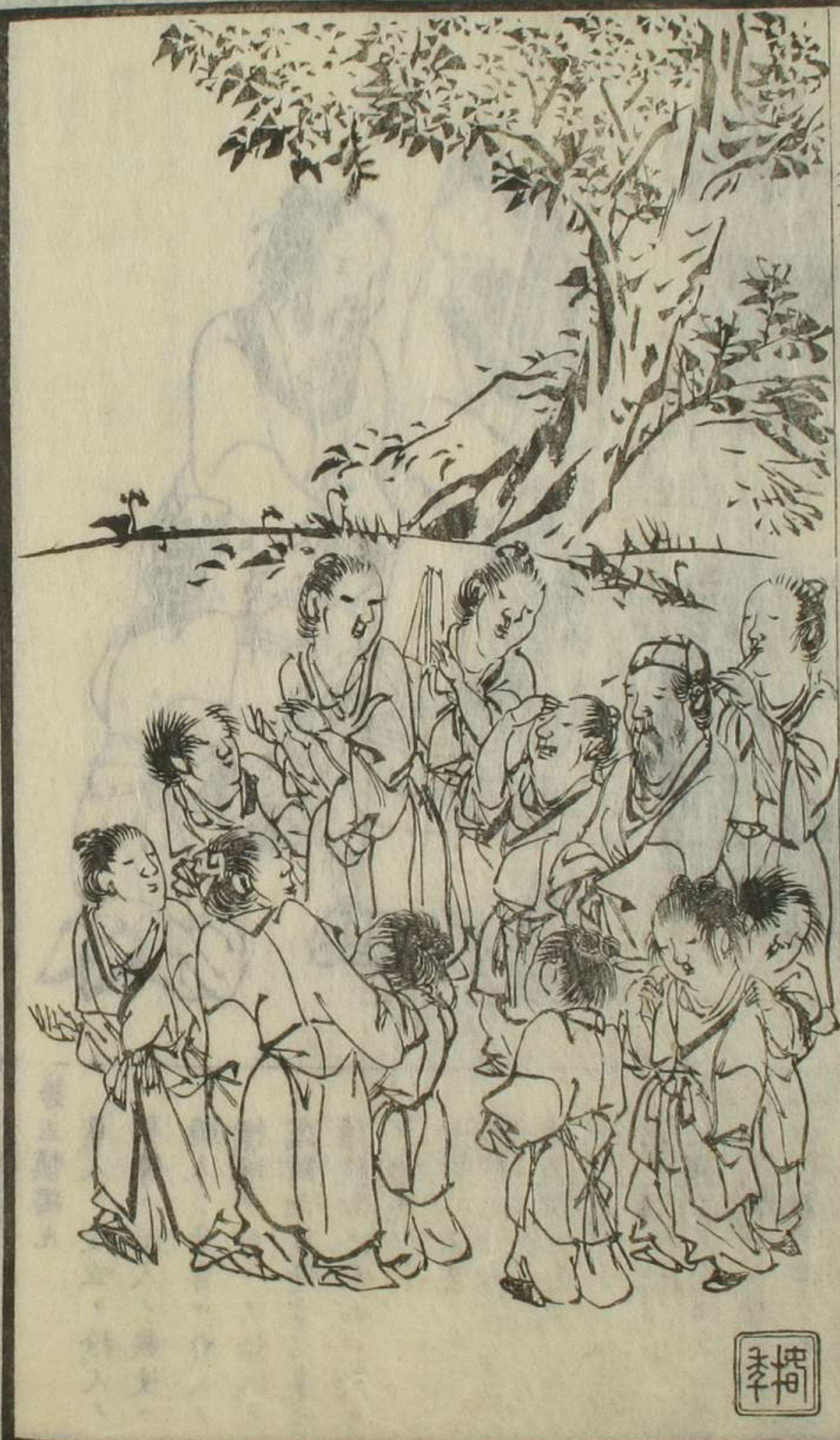
第四長生飲 守分湯無憂丸ヲ用ヘキ證ニレテ思慮煩擾心志定靜ナラザルモノ之ヲ用ベシ。
靜坐一時半日或ハ一日或ハ一日一夜一味調勻連服ス能放心ヲ收拾得テ精神其府ニ定ル處アルニ至テ止ベシ。



第五慎獨丸

專人ノ咳唾ヲ拾人ノ聲響ニ附人ノ喉使ニ聽人ノ意旨ヲ希人ノ標榜ヲ替テ治ス及摸稜面可嚙喋忿羊深情詭秘ノ病並ニ皆之ヲ治ス。
 守口 防意 熟思
審處 各等分各別ニ樽篩末ト爲テ後ニ合ス
 右四味丸ト爲不語唾ヲ用テ嚙下ス此丸後湯ヲ以テ送下レテ尤神驗アリ立方ノ旨趣ハ自能口ヲ守一瓶ノ如ク意ヲ防一城ノ如ク思ヲ熟レ處ヲ審ニシ。諂ナク驕ナケレバ自然ニ効アル製方ノ妙ハ試テ後明ナリ。

第六至善湯 仁義ニ味等分和勻。毎晨ヨリ暮夜ニ至テ之ヲ服シテ數ナケレバ。自然ニ心廣體胖
 二積一歲月ヲ以テレテ津唾ニ便汗垢毛髮處トシテ仁義ノ芬香ナラサルモノナキニ至レバ
 身體輕爽ヲ得耳目益聰明ニ才徳大ニ増發シテ邪想妄念地ヲ拂テ動作運爲自然ニ道ニ合ス
 へク其効豫記スルアタハズ。



精

其心得よく讀べたおとあり。

粥^{カユ}を病人^{ヤシキ}小槩^{ヨシキ}く用^スものときはとも。粘痰^{ネンケ}停飲^{テイイン}あるもの。咳嗽^{セキ}喘^{ゼン}
 息^{ソク}及^{オヒ}蚊蟲^{モンチュウ}の候^{キウ}あるものなど小^コま^まと將息^{ヨウシヤク}ある處^{トコロ}死^シことあり。
 粥^{カユ}の粘稠^{ネバリ}却^{カハ}て害^{ガイ}とあることあり。留飲^{リウイン}小^コく諸治^{シヨウジ}効^{キウ}ある數年^スを
 經^ヘたるもの小^コハ。魚肉^{サカナ}一切膏粱^{サイウマシモノ}甘味^{アマキモノ}を禁^{キン}した。陳廩^{チンリン}米^{コメ}の六七
 年以上^{ナニシヨウ}のもの。一日^{イチニチ}小^コ一合^{イツカウ}五勺^{ゴウ}より二合^{ニカウ}を限^{カギ}こして軟^{ヤルカ}なる
 飯^イ小^コ爨^{タキ}を^スをうとを搏^{ニギリ}飯^イとあり。火^ヒ小^コ烘^{ヒキ}黄色^{イロ}小^コして。盃^{ワン}小^コ盛^{モリ}茶^{チャ}
 小^コても湯^ユ小^コくも澆^{カケ}箸^{ハシ}小^コく能^{ヨク}攪^{カキマゼ}。鹽^{シホ}を少^シ加^カへ。おをを三^{サン}次^ジ小^コ食^{シク}
 べし。かくして緊戒^{キンゲイ}を持^{モト}こと一年^{イチネン}を經^フは。宿患^{シュクオン}必^{カナラシ}治^{ナシ}む。毎^{ミツ}も試^シ
 驗^{ケン}ところあり。ある醫人^{イシヤ}このおと秘^ヒして妄^{マダシ}小^コ傳^{デン}ざりし。其

効ある大と成已專小せんとかり。惣てかゝる病小も。一切粘稠
あるものハ害あり。もし支飲痰涎ある病者小。粥を用んとあら
ハ。必湯小くその粘をあらひく喫しむべし。

大麥ハ小便を通利むる効ありて。其味輕淡といへども。粗糲
く消化ありたふとあはば。胃弱泄瀉あとの病人小。將息ある

登れ大とあり。そきも田家あどふく幼より喫あはさるものも
害あり。水腫小も必おの物を用ふること、心得さるものあはさど

も。その甚たものふる大と成も禁じく。赤小豆と喫あはさるあり。
膏染過度より病とありたるものふる。常の飯小大麥をもちふ

登し。水腫小も碎麥を用て稻米と和ぬあさふ。但下利あるも

の小碎麥も尤酌用あるべし。いふとなれば。麥の粘汁小や、
大便を解釋するの効を具。碎麥も其粘汁を去む直小變とをを
とるあり。

小麥も。其性大麥とる大小相違のものをあり。とべく麩粉を用て

製する物。丸麩。麩筋。切麩。線餅のおとた數種ありといへども。此

物殊小粘稠消化ありたものあはば。病人の喫小先善あらば。
留飲。蠹蟲。及小便不利等の病者とべく禁てよし。湯餅のおとた

ら。世人專病人の必喫べたものときとあはども。先々好きものふる
らば。況むやむさかといふ類も。胃弱者決しく喫ことあはれ

蕎麥粉を生きて多服は。よく大便を下利を故小小兒の大便秘

結小。藥を厭イヤもの小。糖霜サタウを和服ワフクしめくよ。暑時アツキトキ小。水小調スイジョウても用べし。そむといふ名ち。いふかど屑コメカクあまても三稜サンレイの質カチを變カはるとある也。急イムなり。火ヒ熱ネを經フは。そのそばるとある類レも急小。生ナマあるやど小。下利ゲリせぬあり。故ユ小。煮ニて軟餅カンペキとすものも。お色イロ戎蕎麥フバキリ麩フ比ヒ色イロ未熟ナマニエありといふ。豆マメけと。粉コをもちひたるほど小。下利ゲリせど。急イムあるお色イロども。蕎麥餅フバキも未熟ニエある。泥滯ツカエや急イムものお色イロれば。胃弱イワノヨワキビヤウシ病者ビヤウシを喫クことある也。性セイあつたもの小。あら糸イトと。そばるとある也。急イムあることおもふ。急イム蕎麥フバキ麩フもまゝ諸病シヨビョウ小。禁イムことろかく。煮熟ニシユしるうへを胃弱イワノヨワキ病者ビヤウシも與ユてよし。又病瘦セウシヤウ小。害ガイありといふも。一イチ藥ヤクの言コト小。そ

急イムその人の稟賦リョウヒとこの物の熟ユクニク不熟ナマニエ小。よるおと小。くもと毒ドクある物小。あら糸イトと。さしあさりをげし。泄瀉クダリある病人ビヤウシの外ソトも。一切イチ禁キンむる小。およをぬおとなり。はと世人セニヤ蕎麥フバキを喫クて浴ユと急イム卒死ソツシをといひく懼オソルるものあり。決ケツして其理ソノリを急イムことなり。そ急イム此物コノモノ飽食ホウシキや急イムければ。喫ク後ノチ偶浴ニテしたるもの、食厥シヨクケツを發ハツしたる急イム急イム。急イムいひしもの急イム急イム。決ケツして蕎麥フバキの毒ドク小。く急イム急イム。されども此物コノモノを大オホ喫クたる後ノチ卒暴ソツバウ小腹ハラハリ満ミて苦悶クモンものま、ある急イム急イムの三稜サンレイ質カチよりこの腹滿ハラハリを發ハツしたるなり。急イム急イムといふものを細末サイマツ小。く服イヌス急イム急イム。これを解ゲ急イム急イム。いづ急イム急イムの藥舖ヤクショ小。もあり。又牡蠣カキの生汁ナマシユもよくこの物小。あさり急イム急イムを治チ急イム急イムとい

瓜^ク、胡桃^{クルミ}肉^{ニク}をたびく試験^{コトシ}さりとをいふるものあり。予^コは此^コ物^{モノ}小^{アタリ}中^{チウ}く悶^{モン}亂^{ラン}死^シんとせしもの油^{アブラ}を服^{ノミ}せし即^シ効^キを得^ユるものとあり。まゝ此^コ物^{モノ}を性^{ヒヤスモノ}冷^{ヒヤ}くてきらふと謬^{アヤマリ}見^ミあり。温^{アタメ}熟^メて喫^クへむやまもの小^{アタリ}あらば俗^{シロウト}人のまからば鑿^{イシヤ}エもかゝること、思^{オモ}て病^{ヤマト}者^{モノ}の禁^{キン}むるは蕎^{ソバ}麥^{バク}の性^{シヤウ}質^{シツ}いゝあるものとも辨^{ワキマ}知^シぬ也^ナ急^{イシ}を里^{ウラ}もと疎^{ウチシラスカウ}通^{ツウ}能^{ノウ}あるものあらば粘^{タシケ}痰^{タン}留^{リウ}飲^{イン}あるもの。心^{ムネ}下^{シタ}支^{ツカ}結^{カエ}腹^{ハラ}中^{チウ}妨^{ラチセツクンキ}悶^{モン}をおゆるものも殊^{コトサラ}更^{クララ}小^コ喫^クてよし小便^{フツ}を利^リし熱^{ネツ}を解^ゲする効^{カウ}もあり。まゝ感^{ヒキカセ}胃^イ小^コて汗^{アセ}をべた病人^{ヤマト}の熱^{カユ}粥^{シユ}をきらふもの小^コる。此^コ物^{モノ}小^{アタリ}換^{カヘ}て汁^{シユ}を多^{オホク}く熱^{アツク}食^{シタク}しむるもよし。決^{ケツ}しく禁^{イム}べた物^{モノ}小^{アタリ}あらば。

赤^{アカ}小^コ豆^{ツキ}を水^{ミヅ}腫^{ムクミ}小便^{フツウシ}不利^{クシヨヒ}小^コ餌^{ケシ}小^コせむ。煮^{ニシル}汁^{シユ}を去^{サリ}て効^{カウ}少^{オホ}し。必^{カナラ}しく煮^{ニシル}つめて用^{ヨウ}べし。まゝ小便^{フツウシ}不利^{クシヨヒ}小^コて腫^{ムクミ}脹^{フク}あるもの、類^{ルイ}小^コら。鹽^{シホ}を一切^{イチキ}禁^{イム}て。赤^{アカ}小^コ豆^{ツキ}一味^{イチイ}を煮^{ニシル}て其^{ソノ}汁^{シユ}を服^{ノミ}滓^{カス}を喫^クて。他^{ホカ}の穀^{コク}肉^{ニク}膏^{コウ}梁^{リヤウ}を少^{オホ}く喫^クことあけむ。尋^メ常^{テイ}の水^{ミヅ}腫^{ムクミ}を必^{カナラ}定^{テイ}治^チをべし。或^{アルヒ}ち赤^{アカ}小^コ豆^{ツキ}小^コ大^{ダイ}蒜^シを加^{イシニ}煮^{ニシル}て大^{ダイ}蒜^シを去^{サテ}赤^{アカ}小^コ豆^{ツキ}を喫^クもよし。此^コ方^{ホウ}尤^{モトモト}効^{カウ}あむ。臭^{クサミ}氣^キ小^コ堪^{タヘ}んものも用^{ヨウ}べし。むらゝ京^{キヤウ}師^シの一^{イツ}鑿^{イシヤ}よく水^{ミヅ}腫^{ムクミ}を治^チむる名^ナを得^ユる。其^{ソノ}藥^{ヤク}方^{ホウ}も。赤^{アカ}小^コ豆^{ツキ}大^{ダイ}麥^{バク}地^チ層^{ソウ}子^シ各^{カク}中^{チウ}此^コ三^{サン}味^ミ吹^{フキ}咀^クよく炒^{イリ}て。一^{イツ}貼^テ四^シ五^ゴ錢^{ゼン}許^コふして煎^{セン}服^{ボク}て。一切^{イチキ}の食^{シヨク}物^{モノ}と鹽^{シホ}を嚴^{ケン}禁^{キン}す。たゞ赤^{アカ}小^コ豆^{ツキ}一^{イツ}品^{ヒン}を煮^{ニシル}喫^クしむ。その大^{ダイ}便^{ベン}も赤^{アカ}小^コ豆^{ツキ}の皮^{カバ}をのりとあるやど小^コあむ。小^コ便^{ベン}快^{クワイ}通^{ツウ}しむ効^キをうるあり。

おの薬小香附子。縮砂。半复をといさ、あづ、加。今も賣藥
小もかりて世の人もよく知。さるる色とも。さるる小多賣ん
の利心より。塩を禁て赤小豆のそを喫。おとをもや、ゆるべく
能書小記。さる。原意小た。ひく其効をく。且此藥方の勝
て効ある小。あらで。た。鹽を禁て赤小豆を。を食。むる
の。小便通利小。驗あること。或明小。せざれば。あり。服藥。病の異
途。ある小。從。區別。ありとも。を。べく浮腫。小便不利の病者。よ
く此意を得。餌食を擇。べ。さ。あり。鹽を斷。ハ體疲。ん。と遅
疑。て決。せぬ。人。ま、あ。と。も。色。小便不利の證。進。水氣衝心
と。あら。バ。ま。の。あ。り。命絶。てぬ。べ。死。と。あ。れ。バ。ま。づ。その

患を除ん。おと。こと。上計。を。さ。な。小の猶豫。を。ること。ある。べ。死。假
令。バ。こ、小數。日。飲。の。爲。小攻圍。さ。る。もの。あら。ん。小其飢渴。を。救
こと。或。先。小。せん。う。飲。を。追退。おと。を。先。小。せん。の。よく。慮。べ。し。
も。おの。慎。の。あら。ぬ。もの。昆布。を。煮出。た。る。鹽湯。を。の。糸。て。用
べ。し。を。さ。小。も。な。忍。の。糸。ハ。淡味。醬汁。を。喫。む。べ。し。ま。さ。る
梅諸。を。た。び。く。湯煮。て。細。判。さ。る。い。昆布。と、も。小。美淋。酒。を。こ
し。加。く。よく。煮熟。し。その。梅。ぼ。し。を。去。昆布。バ。り。を。些。づ、釘。小
もち。ふる。も。よ。し。こ。さ。ら。も。用。さ。る。小。も。あ。る。さ。る。あり。世。小。所謂
脚痺。小。小便。不利。な。れ。とも。體。小。浮腫。さ。く。た。手。足。麻痺。不。仁
或。緩弱。ある。もの。此。法。小。從。て。其。症。小。的。當。の。藥。を。用。さ。バ。効。を。得

おと尤速あり。まゝ多年留飲より腹滿て惱む。嘔逆を常小お
りて。體肥胖。足脛微腫。暑月尤快らば。諸藥効をたもつ小水腫
を治さるこゝろえ小くおの法をもちふは。意表の効あるも
のあり。緩癖の類もまゝ此法を執て治せることまゝあり。或ち
真の鼓脹小ちあらぬども。腹脹諸治効をたもつもの。及婦人體肥。月
經不順。まゝ癩症。顛癩の類も。まゝ此法小從て殊効を得こと
あり。もゝ緩病小歲月を重く。赤小豆のこを日々喫小堪は。大麥
をほトへ用んとあらは。碎麥およろし。おの粳米と喫鹽と膏梁
を避さむ。小便通利の藥。及敦阜諸症を治せる劑小効をうる
おとおをきこと。むべくの病小其意を擴充て巨利を得こと

ありと意得べし。
資を食て寢む。尿を不しといふも。おは資の効小あらむ。味
厚粘稠ありて化熟おをたゆむ。小氣血の運輸を妨るおとおは
ばかり。故小小便不利。及留飲咳嗽。其他胃弱病者小。蒸糯米を
ととめ一切糯米小く制たるものを喫むむ。おらば。
豆油も。諸病人小害あるおとおし。おと小火煉を歴さるものお
は。再煮さるものも病人好は與ふ。世豎や、もをれは此
物戒禁むるおと過小嚴も。お、ろえぬことあり。
酒も。食事むるおと微飲は。腸胃の傳輸を助肉食泥滯の患を
戒小益あり。おの油とも。熱あるもの。支飲家。及平素四肢沈重を

お不ゆるものち禁む。其他酒を禁べ。病状槩小い。上
衝眩運頭痛。眼耳鼻口舌咽喉肩項。惣て上部小疾あるもの。常小
肩背強もの。咳嗽喘哮小便不利水腫瘰癧痔下疝便毒揚梅瘡附骨
疽及肥前瘡。膝瘡。瘰癧。諸瘡癰。瘰癧。筋攣。骨節疼痛。脚痺。鶴膝
痺。鼓脹。勞瘵。痲疾の類。つれ小動悸あるもの。衄血吐血。大小便血
諸脫血。及陰癬。陰囊つね小濕痒もの。婦人經行不順。胎子不育。
又ち崩漏帶疾あるもの。かゝる病小酒を喫く止さば。必其病
勢を進む。世小多あるところの卒瘵。緩痲の類も。酒より發せ
るもの。十の八九あり。はと婦人經行不順のとき。酒の力を
おりて血の運輸を資益をたふこと。くおもはる。色ども却て血

の壅滯を致し。子藏病を増發もの。まゝ多し。そのうち小も勞瘵
の漸ありて鬱悒もの。酒を得て神氣や、舒暢のおとく見ゆる
る。尤其死を促の所爲あり。惣てのやまひ酒方をかりて快やう
小おぼゆるも。おれ酒の温熱の氣をむらく體中小存あひとの
を小して。解散の後。その害を遺あり。いゝ小となさば。其温暖
を發心意を快暢さる。その氣性小あるところの効ある。色ども
を色ち。霎時小昇陽小つと。く身體を謝去た。その粘稠なる液
汁の腸胃小のこど。後害を醸せばかり。試小酒を血小滴小
赤色忽變。ト。く驢驘となり凝結を。其害を爲。と。試察をべし。
故小瘴厲濕蒸を却。傳染疫毒を避。寒を禦。鬱を達。人をく歡娛

を起しオコシひることの速スミヤクある。此物小逾マカシものかーさいるとも。病お
るものもよくその効カウと害ガイと辨ワカ知チて將息ヨウシヤある處トか
醋スを偏味カクニチヂあるものかきバ。過スキて用ユきバ必害カナラズガイあり。とべく醋スを用
て製コシたるものも。消化コナレおそく停滯ウカユやまし。志シあるとも病者の胸ム
膈チ鬱塞フツカガリたるもの。かよび食味シヨククアチを失ウシしもの。たゞおの物を藉カリて食
を進スムるおとあす。おきらる時の宜ヨシき小從シヤク。一槩サイ小禁止キンゼイとべく小
あらば。志シあるおとあすとも此物こと小敗壞クサレやまじもの。小く。器クハよ
久貯ヒシヨクタマヘするものも。必微細カニス コマカある蟲ムシその中小生シヤウむるおとあり。也
小沽カヒて數日サンヨカを経シたるものも。決ケツして用ユるらば。ほと産後サンゴ眩運メマヒ
かよび婦人フの卒癩ヒキツケかど小。醋スの中小炭火スシヒまさち石瓦カハラを燬ヤて通マツ

赤カ小したるを投イて。その煙ケブリ小く口鼻ハナを熏フスガリおくるおと。俗家シロウチ小も
よく爲スルおと小く効カウあるものあり。そのとれ小の罐ドビンやうの滴口クナ
大イあるもの小醋スを盛イて。その中へ燬ヤキする石瓦カハラを投蓋イレフタをあし。
その口より出イる煙ケブリを鼻ハナへあて、嗅カハむるなともよし。まは石
瓦カハラを投イむ。そのま、小ふりたて、嗅カハむるも。輕症カホキレヨウ小く用ユべし。
劇時ハジキトキも。醋スを口小含直フクミス小口鼻ハナへ吹フキおけおとをること。まはそを
のま、嗅カハむることもあり。嘗カツて産後サンゴ頭小昏眩メクルメキを發ハツし。氣息イキ絶タエ
たるもの小。熱醋アツキスを鼻竅ハナノアナより灌ツギて治チしたることあり。こはらの
おとをさべく婦人フの病小おきらば。一切サイの毒小あより昏冒メクルメキ
失氣キヲウシヒするもの。卒癩ソツキツケ。眩運メマヒ。肩背急痺ハヤウチカタ。かよび沈睡病チマリヤマヒ。あるひち酒小

酔て昏眩覺^{エヒ}たきもの小も施^{ホシ}てよし。まゝ薬の瞑眩^{メイケン}甚^シくいゝ
小とも爲^{ナス}べらざるもの。此物を服^{クミ}く治^チをべし。まゝ病者の居^イ
室の氣の鬱塞^{コモリ}たる小。醋^{ケツ}の煙を薰^{ケリ}ト。傳染疫痘瘡^{ヤクビヤウハクサウハシカ}麻疹^{ハシカ}の流行^{リウコウ}
を防^{フセフ}小用ること及打撲^{トウク}小さしあさり貼^{ツク}をた薬もかくバ。熱醋^{アツケツ}
をもつゝ慰^{ムヒ}まゝち摩擦^{スリツクル}こと惣^{フス}く卒暴^{ソクバウ}の病小効用^{カウヨウ}多^{オホク}ことども
ら。そとくの條^{トコロ}下小説明^{トキアカス}をけしバ。參閱^{ヨミアハセ}て施^{ホシ}べし。まゝ驚^{オドロク}飲^{イン}も尤^{モトモト}
消化^{コナレ}のあしれたものあしバ。胃弱病人^{ハラヨロキ}。食の停滯^{ツカエ}やせれたもの小も
用捨^{ヨクシヤ}をべし。まゝ癩毒^{カサケ}あるもの。及留飲^{オモヒリクインクイキヤ}。虻蟲^{オモヒリクインクイキヤ}小兒の疳疾^{カン}面色萎^{カホイロキバ}
黄腹^{ミハラ}滿^{マリ}手足羸瘦^{ヤセヨメナド}等の患^{ヤメヒ}あるもの小も。醋^スを禁^{イミ}するよし。まゝ
小兒吐乳^{チヨハキ}がよび青色^{アヲキイロ}の大便秘^{オシ}をさるもの小も。その母乳^{ウバ}媮醋^{バス}を

用^{ヨウ}て製^{セイ}するもの、類^{ルキ}を一切喫^{クツク}ことなるれ。
味醬^{ミソ}も常小喫^{クヒナレ}慣^{ナレ}するものあしバ。病人^{ビヤク}といへどもその嗜好^{コソミ}小
委^{マカセ}てよし。たゞ下利^{クダリ}をげしきもの小も將息^{ヨウシヤ}あるを。其佗^{ソノホカ}さし
たる効害^{カウガイモ}あり。煙草^{タバコ}或^{アルヒ}も附子^{ブシ}烏頭^{ウカヅ}あとの毒^{ドク}小中^{アタリ}く瞑眩^{メイケン}しする
もの小も冷味醬^{ヒヤミソ}汁^{シユ}を多服^{オホクノマ}しむとバ治^{イユ}るを。此物^{コノモノ}の能^{ノウ}ともいへど
も。あしあし冷服^{ヒヤミツク}小よりて効^{カウ}あるも。一切^{ドク}の毒^{ドク}も熱^{アツ}を得^エく
をげし。冷^{ヒヤ}を待^{マチ}く静^{シヅメル}ぶ事^{コト}あり。この理^リをよく會得^{エトク}をべし。
膠飴^{ミツアメ}も麥蘖^{モヤシ}より成^{デキル}ものといへども。製^{セイ}を經^ヘて性^{シヤウ}も味^{アヂ}も大^{オホク}小^{コト}異^{コト}
あしバ。粘痰^{ネンケ}留飲^{リウイン}あるもの尤^{モトモト}食^シことあられ。たゞ腹中^{ハラウチ}拘攣^{ヒキツリ}疼痛^{イタミ}
あるもの小も熱湯^{アツキユ}小融^{トカシ}解^{トキ}服^ヘて。その痛^{イタミ}をわらく快^{クワイ}ものありとい

へども過^スぎハ泥滞^{ツカエ}テ害^{ガイ}小^コあるおとあま^マ連日^マ多服^{ニチタ}こと成禁^{イム}
小建中湯^{ケンチュウトウ}といふ薬^{クすり}の類^{ルキ}は此物^{コノモノ}を用^ツるものもあまり小^コ久服^{キウボク}を
宜^{ヨシ}らば^{ヨシ}況留飲^{ケイリウイン}家^ケおと小^コち^チ假令^{タトヒ}薬病^{ヤクビョウ}的^{テキ}當^{タウ}あるも時^{トキ}小臨^{コリン}での
酌用^{サツヤウ}をけ^ケは却^{カフ}て妨害^{サマタケ}とあるおとあり故^{ユエ}小俗家^{シヨクケ}もこの意^{ココ}
得^エあるを^ヲた^タおとなりま^マこの物^{モノ}小毒^{コドク}を解^ケる効^{カウ}ありと^トも
記得^{ココロエ}て益^{エキ}あるとあり

飴糖^{アトサキ}を指^{ユビ}の大きさ^{オホサ}小^コのをし長^{ナガ}さ三寸^{サンサウ}ハありにきりその頭尾^{アトサキ}を
殺^{ホシ}し^{カウモン}肛門^{コウモン}小^コふるくさ^{クサ}し内^{イレ}を大使^{ベンシ}の下^ノ小^コたる意^{イミ}ありて通利^{ツウリ}の
た^タ小^コ蜜煎^{ミツゼン}小^コ換^{カヘ}て用^ツるおと邊鄙^{ヘンポ}か^カと小^コくを^ヲる^ルとあり
菽乳^{トクニョ}を世^ヨ人の大小^{オホコト}禁^{イム}と^トあるおとろえお^オた^タことありも

と黄大豆^{ワウダイソウ}を用^ツて製^{ツク}たるもの小^コ軟脆^{ヤルカニテ}消化^{コナレ}やむく^クとえ^エくその
害^{ガイ}あるを見^ミむ^ムる^ルも鹽^ニ膽^{タン}水^{スイ}を多用^{タビタビ}く硬^{カタ}り^リ由^ユき^キけ^ケはそ
とゆ^ユゑ小禁^{コキン}する^ルあるべ^ベし眼病^{ガンビョウ}小禁^{コキン}もま^マと妄見^{アウケン}ありと洞瀉^{ドウガ}
の病人^{ビヤクニン}小^コち宜^{ヨシ}らぬま^マあり
棘鬣^{セキゲツ}魚^{イサ}も病者^{ビョウシャ}の餌食^{ケシキ}小^コ尤^{モトモト}宜^{ヨシ}もの小^コち一切^{イツセツ}禁^{イム}ところあり^{アリ}瘡瘡^{ハササワ}
の内托^{ウチタク}小^コ用^ツる^ル鹽藏^{シホヅケ}小^コち遠^{トホキ}より致^{イタス}ものも好^{ヨク}し^シらば
鮑魚^{ホウイサ}ハ毒^{ドク}あり^リ人^{ヒト}小^コ益^{エキ}あらばと古来^{コライ}よりい^イひつ^ツとへた^タと
もさ^サしたる害^{ガイ}あり^リと^トもえ^エどい^イら^ラさま小^コも病人^{ビョウニン}の喫^ク小^コち宜^{ヨシ}
とも思^{オモ}は^ハ強^{シヒ}て好^{ヨク}小^コあ^アら^ラば^バ與^ユぬ^ヌる^ルよし
黄耆^{ワウギ}魚^{イサ}を世^ヨ人^{ヒト}を^ヲつ^ツを^ヲら^ラ病者^{ビョウシャ}の食料^{シキリョウ}と^トも^モ也^{ナリ}と^トも棘鬣^{セキゲツ}魚^{イサ}小^コ比^ヒて

を大小劣るものあり。

鰻鱺を病者の好小まゝをべし。多食しむべからば。諸瘡小用て

内托の効あり。瘡瘡小もまゝ與ふ。蟲を殺勞瘵を治むることを

いひつたふれとも證ふ。羸弱病者の虚を補べしとるいへと

も過喫をば下利を促こともあはべ。症小より用捨あるべし。

あるごとく鰻鱺の種屬のやう小見申さとも。織骨多その性大小

劣もの小く。餌食小る爲ふし。

鯉魚を婦人の乳汁を出。小便を通むる効あり。一切の病者禁こ

ころる。水腫小用る鯉魚湯といへる。鯉魚の大き七八寸よ

五寸をのりものをもを。そのまゝ小煎下服るの古方あるとも。

苦味ありて服ぬるもの小も。腸と去まづ板昆布の長一尺四

五寸をのりある小水一升入る五合小煎その昆布を去て。其

汁を用て鯉を煎下。三合小煮つまりたらば。まゝ其鯉をも去て。

その煎汁を三小分一日の中小用るあり。腥を厭もの小も。柚皮

或る椒芽椒末ふと液加る用べし。水腫小便不利諸藥効なく。鑿

の手と束たるもの穀肉一切鹽味を禁下でこ色を用色は。意外

の効あることあり。然ども鯉魚湯の五を服る。禁忌小率畧あ

は。や、もき色は泥滯とあり。胡椒と鯉魚と同食ふと禁

むその理あるなり。赤小豆ととも小喫べらばといふも。全を

子^マ魚^マ膾^スを^リ痢^ビ病^タの^ク餌^リ食^シと^カせ^ドも^モい^マど^ソの^カ効^ヲを^ミさ^スる^ノミ
あ^ラば^カ却^ク停^ツ滞^カて^害と^カる^カと^モあり^コこ^シら^ノ物^ヲを^タの^ミて[。]
痢^リ病^ビの^ハ劇^シ症^ヲを^デ治^スべ^クは^小あ^らは^レ祓^ヲを^用さ^スる^ハ一^ノに[。]
河^フ豚^グ魚^ノも^一種^ノ中^ノ小^モも^毒あ^きと^毒あ^るもの^アり^テ漁^レ人^トい
へ^ドも^辨別^シの^トく[。]あ^あら^ち小^鮮と^敗と^小も^よら^ば烹^レ調^ノ精^ヲ
麤^小も^關連^シも^しそ^ノ毒^ある^{もの}小^會べ[。]そ^ノ死^踵を^回じ[。]之^ヲ
い^つも^見聞^クあ^ら省^スこ^とあ^くく[。]其^味を^貪輩^ハ禽^獸小^も
邈^小劣^タる^コと^あり[。]も^しそ^ノ毒^小中^ニ入^ル者^ヲ速^ク吐^クむ^べ
し[。]急^ニ卒^ニあ^らす^薬を^くべ[。]人^糞一^規殼^許を^服し^むる[。]直^ニ吐^ク
す[。]人^糞ハ^よく^一切^ノ毒^ヲを^解さ^スる^{もの}あり[。]異^菌ノ^類其^他一^切

の^毒小^中で[。]吐^クも^瀉も^あく^悶亂^小奇^効あり[。]ま^ど青^竹を^切て^兩
節^ヲと^りめ[。]廁^瓦中^ニへ^三四^十日^没か^けば[。]そ^ノ中^ノ小^澄さ^る汁^ヲ
を^留瀝^シを^磁器^小畜^土中^ノ小^埋く[。]聽^用も^まど^よし[。]ほ^ど藍^汁効^あ
り^とさ^けど^もい^まど^驗じ[。]ま^ど蒸^ヲを^煎じ[。]服^シむ^るも^効あり[。]
と^いゆ[。]さ^しハ^河豚^ノ毒^小傷^テ鬱^胃と^ある^{もの}小[。]蒸^ヲを^火中^ニ
小^焼く[。]煙^ヲを^口鼻^ニへ^薰く^る法^{あり}。^鹿角^菜も^まど^能一^切ノ^毒
を^解す[。]劇^甚小^いさ^りく[。]油^ヲを^用る^コと^後ノ^中毒^ノ條^小述^べ
け^さを^參考^べし[。]速^ク其^毒を^解さ^スる^コと^次知^得べ[。]鮓^ノ酷^毒と
い^へど^も死^小い^さる^ハど^のコ^トも^あら^ない[。]い^さ、
の^味小^耽口^腹の^ため^小苦^惱を^不考^とも^至愚^こも^いえ^ん。

とあはれおと小く。予が尤憎とあろかり。モトモニム

鱒鱒カニ。性味シヤウミさせる毒ドクありともかをとせぬとも。たまく毒小中

て惱オホムものあるとせよ。同形オナシナリのうち小も。一種シユの毒あるものあ

まにかもたる。病者ヤマトのいふまでもなし。無病ムビョウのものをありとも喫クハ

ざる小るまのり。

鯧魚イワシ。油膩アブラ多其質オホクもまよ良ヨシらむ敗スエやまし。平人ヘイジンといへとも

喫クハ過ヒスれバ泥滞ワカユレこととあがゆ。况シテ病人ヤマト小與オホクべきもの小あらば世

人乳チルヲシチ婦メ喫クハむとせよ。よく乳チを出イダスといふも。帶下チノミチ病ヤマト小効カクあるこ

と然オホクいへると同音趣オホクあるべけと。餌食クシツクヒありとも。かゝるもの

と多オホク喫クハめても。先停滞マツレヨクタイの患ウレヒありく。効カクを得ウルまざる如何イカニあらん。

且ソノ子藏病チノミチの發オコルも。乳チの出イダスざるも。其病因ソノヤマトモト區別サマクあるもの小く。一槩ガイ

小此物コノモノを喫クハめて治イヤさんこととあ。あつるあはれことあり。故ユエ小

用ヨウるあとかれとまさきりとも。

鯽魚カッヲ。毒ドクあり。病人ヤマト決ケツく喫クハべらば。平和ヘイワの人ヒトといへとも。

多オホク喫クハへバ血チを渾濁ニゴラを害ガイあり。ある人ヒトいふ。あつるの軒サシ小胡椒コセウ豆マメ

油ユをのけ喫クハく。即死ツクシしたるものまのあさり。兩人ニヒトまぐみさりと

いへり。予其理ソノリを會得カンガフル小いとまあけと。物類モノゴトの相感カチアヒハ不可思キメラフシ

議ギあるもの小く。且言カツコトバを食イツバる人ヒトあら祕ヒシバ。こ、小記ヒシて世セ小示シメを。

堅魚カッヲハ。まで小煮熟ニヌキを歴ヘするものあれば。一切イチツクの病者ヤマトとの好小

任マカセてよ。

叔鮪も毒あり。病人喫べらば。癩毒あるもの最く禁べし。

文鯨魚ハ俗傳小難産の婦人小黒焼小く用ぐ効あるを

言ども無益あるのみならず産婦小く用ぐものを與ふと却

て害あるものなり。煮て喫しむるものあはれども。そはせぬ

よし。病人好とも過ぐ食しむるらば。

惣て無鱗魚屬も腐敗やまきまき酔やまき。こはれその性の善く

らざるどころあはれなり。

比目魚ハ世醫のふくむものあはれども。さしたる害を見む。こは

小一種酔ものありといふ人あはれども。いまその物を知む唯

むいおはれといふものも。病人喫小宜らば。ひらめといふも

同種屬なり。

鱈殘魚小。腸胃を順に効をいへども。かほつるな。濕を動を害

を説もこゝろえおし。させる毒あはれものといふれば。病人の

好小從てよし。

蜆ハ病人好ともまづ禁するところよし。味噌汁小煮て黄疽の

餌小用さども。させる益なし。小便を利むる効をいふとも。謬見

あり。ある邊鄙小この殻を火小焼て極細末小く。小兒の久咳

嗽いとゆる百日咳小用ると。家の秘方をさるものあり。もと漢

土より出たる方小く頗効あり。も小兒久咳嗽小く下利を兼

面黄體羸たるもの小く。珥を細末して用て効あること。予の發

明メイ小コ。世ヨノイシヤ整セツのいまど知シラざるころあり。
文ハナヅリ蛤ハナヅリと痘ハナヅリ兒コある家イヘ小コ入イ宿スらばといふを妄イツハリ言ハリあり。こは小コ限リ
ばをべくの介カヒルホ屬ホを。長ナガ病人ビヤクジンの食クワ小コ宜ヨシらざるハ。こ、小コいふま
ふもあらば。

鰻アハヒ魚イシハ。毒ドクあるもの小コあられ補ヨロキハラと。胃イ弱ジヤクのものも喫クツことを好ヨクば。世
人コノ此コノ物モノ眼メを明アキラカ小コまといふを非アズシり。殼カラを石セキ決ケツ明メイと名ナるもの小コ其
能ノウをいへども。さら小コ驗ケンあり。況マシテニク肉ニクと殼カラとも功カウ用ヨウ同ドウあらば。決ケツ
て無ム用ヨウのことあり。串クシ鰻アハヒ。收カス糟ソウ鰻アハヒ肉ニク。ふくだめの類ルシも。長ナガ病ビヤク不シヨク食シヨクの
もの喫クツてもつとも宜ヨシあらば。
海ウミ膽タン醬ジャンよく湯ヤ火カ傷ケを治チむる小コ即ソク効カウあり。速スイヤク小コ貼ツケてよ。かたき

ものも。湯ユ小コも水スイ小コても解トキてつくべし。
松サ魚ケの生ナマあるものも。味アジ輕ヒ淡カ病ビヤク人ジン喫クツ小コ尤モトモトよし。もしその物モノを
とき。鹽シホ藏ゼキのものもはよ用ヨウべし。血チを運メダし毒ドクを排オシダし。膿クモと釀カモ
内ウチ托アゲの効カウ尤モトモト優スグなり。世ヨノイシヤ整セツや、もまをまばこの物モノを喫クツことを禁イムハ
可アハシムベキ怪オドロクあり。我ワレ邦クニ調チ血ケツの劑クサ小コ往ムカシ昔キこの物モノを用ヨウべし。こは
決ケツして毒ドクあるもの小コあられ。多オホク喫クツて瘡ソキモを發イダスハ。こは此コノ物モノの効カウを
色シキ必カナラシ懼オソること小コあられ。身ミ小コ毒ドクあるものも。いふべし。喫クツとも
瘡ソキモを發イダスことあり。故ユエ小コ肥ヒ前ゼン。微ビ毒ドクの内ウチ小コ伏フシ諸シヤク疾シヤク患ヰを爲ナスもの。日
々タカ小コ喫クツる甚シ良リヤウ。痘ハナヅリ瘡ソキモを患ウレフ兒コ小コ與クセて尤モトモト其ソノ益エキあり。子チ小コ乳ニヤクを與アタフ
母ハハ及ツキ乳ニヤク媪バツ常ツツ小コ食クフべし。いふある病人ビヤクジン小コ與アタフるもいさ、り害ガイある

と見ざることなり。

鮠魚シホモノ。ヒモノ鯪魚ル井の類も。病人小宜き魚なりとも。先ハ喫さるがよし。

鶏ニハトリ血脈チノメクリと資内タスケカク伏毒レタルドクを排オヒダし。膿ウミと釀カモスカウ効ありといへども。粘痰宿

飲イシある病者も。此物をとらめ諸鳥肉イモノトリル井とも小將息ヨウシヤあるべし。おとなり。

鶏卵タマゴも。其効ソノカウハ肉ニク小かゝる。咽喉腫痛ノンドハレイタミて。粒食コメル井の降トオリたき小此

物モノを生シヤウのまま、小豆油シロウユをこし加調サレて喫クハしむべし。おもひの外

小よく下降トボルものあり。その鯉オササケを惡キラむもの小霜糖サメクをくへ熱湯アツキユ

に和トスて用トクべし。咽痺ノコヒ小生シヤウのニよるニ也。日小數枚ヨソイを喫クハしむるときも。命イシチを保タモツ小足タレり。そのあひニ小治チを施ホシスべきあり。又瘡カウ

瘡サウある家イ小この物モノを禁イムといふものあり。尤モトトモ不可解コトあり。瘡ハク

瘡サウの内托オヒダシ小餌メシ小常ツネ小効カウあるを見る。決ケツし禁イムをき小あらば。

まニ湯煮ユデたるもの小病人多喫クハべらば。泥滯ツカエやニきもの小色

ハ也。ほニ湯火傷ド小用タマゴるニ鶏卵油ゴウアブラも。湯煮ユデたる卵タマゴの黄キミをニ王ミを復マシ

土焔ドナヒ小漫火トロヒ小炒イレハ。漸シダシ小油出アライソウるを取蓄トリノケて聽用ツカフ小。いニつニ効

あるものあり。

野鴨カモハ毒ドク小滋養チラマスの効カウあり。痘瘡ハクサウの内托オヒダシ小もまニ用トクべし。皮カバと

骨ホネハ病人決ケツし喫クハべらば。多ニ煮汁ニシユのニカニよし。鴈ガンも。鳧カモ小類ル井

して其力劣ソノチカラオトシし。

鷄チ雉ジハ。内托オヒダシの効カウ優スベたれども。毒ドクをき小あらば。病ヤミ小よりて將ヨク

息あるべし。

鶉も。小鳥のうち小ハ餌食クヌリケふもちひくふろし死ものあり。

葡萄。梨。林檎リンゴの類ルキ子ウ熱ある病者このまハ。酩酊サッロク酔イタヘと與カキスふ必害ある

ことなし。そのうち葡萄もつともよし。

黄橙。蜜柑ミカンの類ルキ熱を解ゲし渴カキをやむる小効あり。皮尤優。

霜抄シロカキ。籤抄シカキ。効用かた。この物小蛇ヘビの毒ドクを解ゲする効あり。近ごろ

ある家の庭ニハ小蛇イデの出イデるを捉トラスる戯タシ小吞ムま祿シラをいたるもの

ありし。誤アヘマリるまこと小吞ノミる。とやくをるうち腹ハラ大オホ痛イタミ悶モウ

亂シラれどんと死シナんこと。衆イシヤ整オホ集ホ會アウマリて吐ハキ下クダをべき劑クサを頻ヒキリ小用コヨウる小

苦痛クツクまどく劇ハゲシく。醫士イシヤも伎窮コマリ束手ハテタリしを。後ノチ小到キタリし一ヒト整トク此物コノモノの蛇ヘビ

小咬カマきたる小貼ツケて効あるを知チて。試シ小煎セシして内服ノウマしめたる小。

其痛ソノイタミ忽ソク小治イエりこと。予ゾいま試シ験ケンかけしごと。若ニをらく此コ

記シて世セ小告ツケかり。まど呃逆エツクリを治サする効あり。この物特蒂トクテを用ヨウ

小のぎらばヒルと知チべし。

西瓜スイカも。渴カキある病人ビヤク小與ユてよし。世セ小この物を喫クヒて吐ハキ瀉シヤあるも

のを見る小。皆過食ミナクヒゆゑなり。たえく毒ドクあるもの小あら祿シラハ。筋ハシ

喫クヒる害ガイあるをきるむ。ゆゑ小大熱渴オホノツクあるもの。好ヨクぞ微スミづ、與ユて

禁イムことあるれ。よ下利クダリあるもの小將息ヨウシヤあるべし。小便不利ベシ

油麻ユマハ。病人ビヤク喫クヒて害ガイありしを見ミば。や、もををを醫人イシヤのこを

禁むるもこゝろえは。病人の嗜好小任くよし。はさ此物小精を
益髪を烏毛といふものあり。こま大なる左過あり。さえくこの、
効のあるもの小あらは。決しくをさらの説小惑べらば。ま
た油も生小く用るこも大小異なる。病人小おいて尤禁む
るこころ小あまといへども。油と薬と反ありといふも。こま傳
習の謬見あり。さべく油も喫て時を過もともを胃の上口小
ありく下降たきこも。水小混さる油の上小浮て。その水
を傾瀉ても油も器の邊小残るごとし。且其粘滑あるゆゑ小。腹
中の機あしかりく。留飲と小尤妨とあることあり。薬と
相友の故小禁小あらは。さちいへ油の性質ハ一切の薬毒を

圍繞て其力を挫ものある。反といふ理のあら小もあらは。と
世人ちかゝる理を辨知ていふ小あらは。右をらくこまと驚
をなり。そく喫て泥滯を知ぬもの。病ありとも少の與てあ
このふ小あらは。又今世小發瘡膏を糲て貼るこころ小水
疱を起ものあり。此膏を貼る後小。小便淋瀝陰莖中小痛を知る
者あり。速小油煮やうの物を食ハ其痛治るあり。このこと小
て記得べし。まは龍腦一味細末小く服るもよし。
菘を煮熟をれを軟小く。胃弱下利の病者ありとも。嗜好もの
小ハ與て害あるもの小あらは。たゞ留飲家及面色黧淡唇白者
等の惣て菜蔬の類を多喫ハ宜らむ。然を世豎々その科別も

かく。一切の病者小菘を禁むるあと嚴ハ。全その理あることあ
る。唯鹽藏の物を消化宜らば。羸弱病者多喫むべから
ず。世人いふ菘を喫て兒小乳を嘔むる。兒の大便秘といへ
ど。是蠢愚ある裁量あり。兒の大便秘の青者。病ある小あらば其
母の乳媪小必故あることなり。菘の青色の乳より轉輸て大便
小出るもの小あらば。若然らん小者。赤色の物を喫バ赤大便を
泄。白色の物を白大便とあらん。甚失笑べきこと小こと。
白苡子も。腸胃の運輸を資留飲を疎。飲食を消化。食滯を治む。傷
寒の精神錯亂譫語ありて。諸藥効あきもの小。この物一味細末
小したるを煎服せしめ。驗あることあり。痲病小も用べし。手

小不遂不仁。ところあるものも。此物を布小裹沸湯小撮て。肩よ
り身柱の部を慰脚小あるものも。腰を慰て効あることあり。は
つ平素小頭熱脚冷るもの小。嚴醋小て衾り足心へ貼てよし。
餌食小毎朝味噌汁小點々用べし。
焯菜ハ。腸胃の轉輸を健小し。腹痛を治し。鬱胃を開の効あり。一
切の病者禁むところあり。帶下諸病鬱悒諸症痲病。惣て胃弱者常
小餌小し。よし。
生薑も。一切禁むところなし。胃弱病者かよび胸膈痞塞。或も留飲
あるもの。ことさら小喫てよし。嘔氣小尤効あり。煎劑小生薑一
片といふも。や、大なるところ小く。厚一分をり度を度とせべ

麤皮を去たるをよし。因ワイテ小いふ。凡スベく薬を煎センぶる小磁器を
上ヨシと以。薬を布囊フクロ小盛イシびそのまゝ、小投イシするをよし。其味アキヒを主と
する劑クネリを濃煎コクセンズルをよしとす。芬芳カホリあるものを濃煎コクセンをこのまじと
先知得マツコエくよし。もし香氣ニホヒあるものを煎センぶるからば。確クサリナの滴口を
も紙やうのものを代フサキ以キ之を塞モシ。その氣の泄モシぬやう小を煎センぶる
也。
葱子ギを病者小禁イムところあり。疝瘕センキ腰痛ハライタミその他下劑ザイを服ノミて便下ワケべ
き小下ワケの秘腹ハラ中急痛支悶キリクツイタミムチワケ。まゝも痛肝門イタミカウモン小徹トホツて堪タムたきかど
小。白きところを掌テレヒ小くよく揉モミ。まこつ、鹽シホを和クハくよく軟小
し。瓷焔ドナヘ小く温アタめ。布ヌ小裹ツミく慰ムシするをよし。尤捷便モトモテチカ小くよく煮シるも効
あり。擲ウチ撲イの腫痛ハシイタミ小も用ヒて慰ムシてよし。

菜腹ダイコンも。一切の病者禁イムところあり。煮ニするもの尤モトモよし。生シヤウもま
あいららば。沙菜腹サイサイオコシも用ヒて害ガイあらば。頗傳化ヨホトコナレの機ツギを資タスル小益エキあり。
この物を葱白サイシロコ小交マゼて慰劑ムシゲスリ小用ヒることあり。澤菴タクアンづけ。糝淹スカシツケの類ルキ
も。病者好コナマハ與クハヒてよし。たゞ莖葉クキハの鹽藏シホヅケもこのまじらば。
竹筍タケノコも。毒ドクあるもの小あらば。消コナレ化レあり。凡スベくものを煮シるを婦人齒メノハを染ソメてこを
利等リナドの病者小禁イムことあるまじあり。
菠薐菜ハカレンサウも。毒ドクあるもの小あらば。志シあるを婦人齒メノハを染ソメてこを
喫クハハ。毒小中クハく死シぬるといふも。鈎吻コウフシ和名ワナをわりといふもの
の相似ヨリたるをよし。偶小タラシを毒ドクの類ルキを誤認アヤマリ喫クハく毒小傷アサリ者モノ

あるあらん。はさ芥葉の鈎吻ありて。せりと相似たり。和名お
ほせりといふ。池或も澤小生む。こまま毒あり。よくく辨知登
し。
大蒜灸を瘡癰の膿を呼小用する。火氣の内小徹く痛を知らぬ
ら祢む。効あきものあり。

芋の類も毒あるもの小あら祢ども。痰涎留飲の病者小喫しゆ
ざるをよしと云。青芋尤善のらば。薯蕷の精を益といふも妄也。
をべくころ、トする。長病人といふまやもあらば。つ祢小宿飲
舊癖あるものこまを喫へ。ま、停滞ことあるものあり。
蒟蒻ハ性質のよるらぬものなまハ。病者の喫小宜のら祢と。微

少與くる害あることあり。世人癩癩小禁といふも真小然り。痘
瘡せざる小兒小喫しむべのらばといふも證もあき妄言也。幼
より喫熟ても害あるを見たることあり。ま、此物を湯煮乗熱
手巾小裹病痕腹痛及腰痛等を慰てま、効あることあまハ。時
小臨く用べし。

茄のよく煮たるも。病者の好小任く決し害あることなり。婦
人食ハ子藏を傷といふも妄言なり。あきあまを眼を損むとい
ふも謬見也。た、鹽藏久を歴ざるものも。痰飲を激動ことある
の故小。將息あるべきことなり。
牛旁ハよく瘡癰の膿を釀毒を内托く。小便を利むる効あり。痘

瘡兒サウコ小熟煮ヨクニく喫クシめくよし。その實ミを惡實アクビツといふ。痘瘡ハカサウの眼メ小入カクキたる小兒コドモの顛門ヒヨメキへ呼膿膏ウミスヒカウヤウ小和貼マゼハリて能其毒ヨクソノドクを導ミセクゆゑ小輕症カクキ小用カクキべし。

沙糖サタクを用ヨシスて製コシスたるものも病者コノミの嗜好マカセ小妾エタラて與ヨシること禁イムべき小ハあら祢クヒスギとせべく喫過ナツムるも泥滯害ナツムのガイかき小あら祢クヒスギハ其ソノ酢サ酌リヤクをべたことなり。藥サシヤフと相友イサリといふをイサリと譎イサリ小をイサリと此物イサリ小もまイサリと解毒ゲドクの効カクあせば。去イサリのイサリひつとへたる小もある也。故小鯽魚ユエ金鎗魚カツラなどの毒ドク小中カホて面熱頭痛オホをツツる也。小糖霜サタク水ミヅを用ヨシること。世人ヒルの知ヒルところ小くま、効カクあることあり。煙草タバコも毒ドクかき小あらむといへとも常喫ノミセたるものも病ありと

て禁ケンむる小及オヨむ。た、喘咳タンセキ劇ハシきものちや、將息ヨウシヤをべし。又溺死オホシたるもの小烟草タバコの煙ケツリを肛門カウモンより多噴フキ入イて治サむることを聞キケむ。予コノのまコノと試験コノたることなり。も、こは行オホんとあらハ。性キ烈品フヨキチを大頭許ヒヤラノオホある煙筒キセル二挺ホン小實ツギて火テニを點テニ。一スヒクチの喩カウ口モンを肛門カウモンへ挾サシ一フクミを口小含ヒザラて。火頭アハを相會ハセ息イキをきめくたびく吹入フキ入イ。尤水モツモを去オホ、の小吐ハカせく後行ノチべたあり。こは予オモの創意ヒツキの便法シカメ也。

茶チャの病者ガイ小害ガイあるを去オホ熱オホある疾傷寒ヤミ時疫シエキを去オホ小ることさ。小與オホてよし。痘疹ハツサウ小尤モツモ効あり。初發シヨより灌膿ホンのあひと。上品ホシの茶コクセンを濃煎コクセントく喫ノミめくいつも其効ヒを知ヒ。婦人メの癥瘕シヤウキ子藏チノミ

病小も用てよし。此物人々喫きたりて。腸胃小慣熟したるもの
あまハ。病者好ハ與て一切害あることあり。まゝ末茶の世小濃茶
淡茶あまと糲ものも。喫慣たるものも。病あまとく必禁ところ小
あらび却て腸胃の機轉を資の益あり。志のまじも頭部の鬱塞
を開達との速あるものあまハ。眠を礙るともその人の質小由
てあることあまじも。それを以て茶の害とていひおさかるべし。
此物曼陀羅花阿片あまとの毒小中く。沈睡覺おたれもの。及子藏
病癩症あまと小く。沈睡を發したるあまと小用べし。世人いふ。藥を
服もの茗を用てハ効あり。土茯苓の類も藥汁とて水とあま
しむといふ。こま大なる妄言あり。予恒小病者小此物を禁ざま

ども。たえく藥の効あまきを見れば。右小いふところの病者のあま
眼。耳。鼻。舌。上部の病あるもの。癩毒諸患眩運昏冒頭痛肩項強あ
ま小く。必上好品を喫てをゆるし。効あることを知里。この物
小解毒の能ありといふふより。藥の効を妨るといふ小もあ
らん。いづま小も拘ところ小あらびと心得べし。
惣て熱あり。湯茶あまと嗜病人小も。必度を過さぬやう小時々
與く尤よし。そま自然作用力の飲液を得く病を解さるあま
を欲ものあまハ。必こまを禁むることあまれ。婢僕あまとの病あ
まて渴あまもの小も。必その同僚小命を求る小從與しむべし。
熱飲を欲を熱劑相應の證と。醫書小いひつゝふまとも。今病者

小驗コケン必カナラしも然シカむとむらの説セツを的アテ小コくち治術レウヂを過失レウシとま
まあるものあり。

熱劇大渴ネツゲクダイカクあるもの。その好小コニミほるせく冷水レイスイを與ユく病ヤミを治チむる
ことあり。決カタし禁イムべき小コあらば後の傷寒シヤウカンの條小具アラムレ梗槩コウキを述
べけむ。熟讀ヨクヨミ考カウべし。其他水ホカの効用カクノクサマク多端タタンあるも近イカキものを
一ヒトニ舉アゲく其例レイを示シべし。齩齒痛ムシバノイタミ歳トシを経て治チすもの。朝起アサオキ
の漱口ウカイより朝夕レイヨクの食シヨク事ジいさ、の齧子クワシ漿餅果實モチキマコノミを喫クモむと
紀イキも寢イネんとむるとき。廁セツインより出イデたるときも。癖クセありたるやう
小水コスイ小コて口クハを漱ソクく。一切湯イツテウを用ヨウることなく。平素止ヘイセイシむをけむ。
その痛漸イタミシヤ小瘡コウく。多年ナンネキの宿患ヤクワンを除ノクべし。まマ鬱毒ウツドク及留飲リウインあるとあ

○常小飲食ジョウコウインシむる後ノチごと小必端坐コニミカニワリして先口センクハを開腹ヒラキハラ中の氣キを呼ヒと數遍スベテ小く口クハを閉トめて両手リウテ掌テを
相摩アイヌて熱アツクせしむ。額上ニクより兩頰リウケン下及左右ゲウバクサウの軀クを摩マ擦サツと數遍スベテ尤輕モトモトをべし。其次コノチ小兩手リウテ相並アイニて左右
の胸脇キョウキョウより小腹コウブ小至コニまで。徐々シヅカと撫摩フマと十數遍ジュスベテこも面部オモテを摩マるより小水コスイを用ヨウべし。其後
兩大指リウオウサシを以モツて足心ソクシン湧泉ユウゼン穴アナを力チカラを極キマて摩マ擦サツと左右各五七十遍サウバクゴゴジュウシベテ小く止ト此法コノホウ飲食後インシノチ心下シンカ胸膈キョウカク
氣キ停滯テイテイをおかえ。或シハ身體シントウ沈重シムカウ睡眠シュイミを催メとあるもの小月コグヱツと累年レイネンと積ツキて行イく藥ヤク小優コユウる効
有アリとありか、る症シヤメあるものも常小施ジョウコシて止トとば。飲食インシの消化シヤウカを資サシ滯食留飲テイシヨウインの患ワンと除ノク小瀉コガ益イキあ
り。熱按ネツアツむる小古人ココノリの宿食ヤクシキと雜病ザクビョウの先マツと為ナリと云イハふと小く愆チンの病ヤミと口腹クハハラの欲ヨクを節セせざる
ふれむ。ひこり志處シチあり。其暇コノヒマある小非コトと格物カクブツ致チ
いへる如スく飲食インシを戒イハむるこりもかかざる格物カクブツ致チ
知チの大本コノホ小く身體シントウの壯健ソウケンある小非コトと道ミチを得エ
る。故ユた小農工コノウ商各シヤウカクの職シヨクを成就シヤウジウせざる能スき
古人コノリも戒イハたむ。愆チンて飲食インシハ必カナラ六七分ロクシチブ分ブンと
定サむべし。飢乃ウツクニ加餐カカン兼食ケンシキ美于珍味ミヤチンミ倦然クヱニ
後卧ノチ草荐クサゼン勝似シヤウシ重衾ジュウキ古の君子コノリハ蔬食ソシキも飽マま
で小せむといへば。美味醇酒ミミチンを肆シふ
身ミを忘ワスる。天年テンネンを折セ家ケを破ヤすのあらざる。故ユ小
か、る環ワタリ末マツある導引ドウインも。こをこを醫イの科カ小具コグべきのミあらば。
まマ修身齊家シユシンサイカの一助イツシュも。あるべし。歟ヤと云イハふと小く諱ヒコシむる小くありける。



涎唾粘稠。口氣常小臭。舌糜爛。齒齦をりく腫。あるひ
膿を出すとあるもの、おときもまゝ此法小從く息ことあ
けと。其病原を平治と小ハあらはれども、
を得べし。まゝ惣く平常熱物を嗜喫ものち、
を發しやとく。牙齒の損むるともちやきものあり。これ又預く
意得べし。

讀書小耽。伎巧を業とし。とべく眼力を勞ものち。毎夜寢ときと
朝起たること久小。眼の上下の眶と内外皆の内の液を冷水小て
よくく洩去。刺螫もの無小いたるまゝ。かくして息されば。眼の
疲勞とくおれものあり。

産後の眩暈小。冷水の奇効あると坐婆必研小くハ。其説を
記たとも。今此編婦人須知の巻小ハ。こを述べ俗家小示
べし。其他熱病の危篤證小。灌水得効ある辨痘疹。驚癇。及癩疾癩
癩。狂癩諸症。癩瘰諸患。又と瘰狗傷てより。精神錯亂もの。或ち頭
熱經久止ざる。或ち惡寒歳を累く愈む。或ち久瘡諸治効を久類
及癩病初發癩瘰初起小。灌水。浴水。拊水。及瀑布泉を用る差別。其
佗の諸病小。冷水内服。辨別を。予か多年の試験も。皆治術のう
へのと小く。鑿も其人小あらさ。其ハ妄小説論。たたく。况俗家の
理解し難とのと多け。此小を具論せざるあり。
穀肉果菜の性質小。寒熱温涼といふこと。あき小あらはれど。炙

飪たるをを温暖あるま、小喫するを。その火氣をその中
會有たむ。平素喫慣るる飲食のうへ小おいく。あるがち小
の寒熱温涼を論ず。ふらく愛憎の意を起すべきこと小あらば。且
世小いひつたへ書小記する類。皆守杭説多く。實の据とあり
難こと。のそなり。藥の性効小至るもま。然俗人ち熱あるは寒
るよきものとかもひ。冷るをを温ねるあらぬこと、記得とせ
ども。療治醫藥のこと。さやうの俗見小くゆくその小あらば。
熱あるものをを不温寒ものを益涼と利ものち常小あるこ
となり。然を藥ち如何ある故小効あるものとも知。附子とい
へば温るものとかもひ。石膏ときけば寒こと、臆度ちあまり

小愚昧あること也。凡俗の了解のたきことな。今此小其
大要を畧し。い。惣てこ。寒る。熱と。温ある
冷と差別使用ところの物の性といふ。生活體の一元氣の運
動機と相會て後初見ところ小。其性小由効をも害をも
爲ものあるは。炙飪より煎煮の火製をふる小。從く性の變化も
のま。多。又物の相會く性効を見といふこと。成喻ん小。其性
熱ありと。いへど自焰を發く。燃小もあらば。寒あるは。こて
氷て碎たるため。も。小熱劑も所使小由く。寒とも
あるべく。寒藥あるとも。又熱を發張本ともあるは。た。理小を
のり繫縛ら。ぬものといへば。繫らぬやう小

て縛らるる。理の外を出ぬ活手段あり。然を中古醫學の世小
廢たたる頃小。石膏をを手小握くその冷やのあををみる。太
寒藥を定くた。寒をもものとのと思へ。假令を氷や雪を寒と
識湯小沸を熱といふごとく。夫を其體小つきくいふまでの
こと小く。其性を論むとるいふをらば全物の條理をも窮知
ことあはより。妄小か、る差謬を言出さるあり。をへく世間
小藥の寒熱温涼を談こと皆この類小く明あらば醫學も多途
小く規則定るさけは。幼より白首ま。汗牛の書籍小眼を
さらし。諸師小從學衆病を施治し。且其道小爽利小くも。あ不實
小知得たるもの少き藥の性効と病の所由を庸俗のいさる

辨得らるる。眞々之中小限る命數あは。必治法も一定あら
ん。故小こややくいとんふりも。病のあをを一切醫師小任て。
俗人の愚癡ある裁量をいをぬどよき。病家もた。一途小信用
をる心を先とし。醫者も誠實もつをら小く。他人の病を自己
の身小荷負をせ。小心を潜を。絶伎小あらばとも大のこの病
を治を起き道理あり。こをく小醫者も輸寫小をら祿を。病者の
爲小損あるあとし。たとへ巧手ありとも病家小疑念を懷多
慮を見せば。かもふやう小手も下さぬものあり。ま。庸工
をや。世の諺小い。のあたまも信心をらと。其意味を醫者
のうへ小もあること小く。正氣散龍王湯の泡藥も應とかもへ

ハ得利^{キクコト}あり。申^{マウ}意^イ小同病^{コトウビョウ}小同劑^{コトウザイ}を與^{タテマツ}くも。病家^{ビョウカ}と醫者^{イシャ}と互^{タガヒ}に相投^{サウテイ}せ給^{タマフ}ハ。効^{キコト}あるべきも驗^{ケン}をねことあり。こゝらの旨趣^{ムネ}を淺近^{アサハカ}なるやうなまじも真^{マコト}小其理^{コトウシ}義^ケを會得^{エトク}せん人^{ヒト}を稀^{マレ}あるをの^ノ小^{コト}く。この^{コノ}小^{コト}我^ガ意^イといふもの^{モノ}の妨礙^{シヤマ}してハ。實際^{マコトスベキ}を明^{アキラ}めらる給^{タマフ}ハ。速胸^{ソクキョウ}の中の茅塞^{マウサウ}をよく闢^{ヒラキ}く。平心^{ヘイシン}小聽受^{コトウヂ}んことを庶幾^{コトヘキカフ}のミ

病家須知卷之二 終



